

学校点描

学校保健委員会では、お医者さんや大人に混じって保健委員の生徒が参加し、発表しました。

《M中学校》

NO. 10 H27. 12. 18

担当：教頭

今週に入り、3年生の受験生に対する面接練習がはじまりました。2日間、私もお手伝いをします。5名から6名で集団面接をしました。みんな緊張の面持ちで会議室に入ってきます。ただ、受け応えは、これまでの担任の先生や学年の先生からの指導の成果がはっきり生きています。みんな、はきはきと答えてくれました。最後に「あなたを動物に例えると？その理由は？」と尋ねました。全員きょとんです。予想外の質問でしたから。それでも、考え考え、しどろもどろになりながらも「モ、モグラだと思います。私はみんなの见えないところでも、一生懸命仕事しようと心がけているからです」なんて答えてくれます。

特色ある学校

11日には、大縄跳びクラスマッチが行われました。今学期に入って雑巾がけリレークラスマッチに次ぐ、2度目のクラスマッチです。各学年A組からC組まで順に跳びます。3分間で何回跳ぶかで勝敗が決まるのです。跳ぶ側も体力勝負ですが、回す方も体力は並大抵ではありません。面白いことに、3年生のクラスはすべて、女子が長縄を回す担当になっています。クラスマッチに向けて、各クラスは練習をして本番を迎えました。リズムよく跳べる生徒もいれば、どうしても苦手な生徒が各クラスにいます。あるクラスは、何回練習してもなかなか連続して跳べません。同じ生徒が引っかけってしまうようです。そのうちに、練習よりも話し合いの方が長くなってしまいました。

さて、特色ある学校づくりとは何だろうと考える1年でした。町からもそのための補助金をいただいています。特色がある学校づくり、キラッと光る学校づくり。どうして、文科省も県も町も、この『特色ある学校づくり』を盛んに呼びかけるのでしょうか。ある教育行政のプロの方の書物にはこのように書いていました。

『「特色ある学校づくり」が今必要になっている背景には、日本の社会の大きな変化があります。具体的にいうと、今、日本の社会は、国際化、情報化、科学技術の発展、環境問題への関心の高まり、少子高齢社会の到来など、大きく変化し続けて

います。そのような状況の中でたくましく生きていく人材を育てるためには、豊かな人間性をはぐくむとともに、一人一人の個性を生かしその能力を十分に伸ばすことが必要になってきます。一人一人の個性を生かす教育を行うためには、どうしたらよいか。それには、学校の教育全体を、生徒の個性を生かせるような創造的で柔軟なものにしていく必要があります。「特色ある学校づくり」は、そのような教育を実現するためのものです。』

さて、この9カ月間、M中学校の『特色』を発揮することができたのでしょうか。私達の目指す『特別な色』とは何だったのでしょうか。

13日（日）に、M中3年生の“進路達成祈願餅つき”に参加させていただきました。午前9時から、保護者の方々が調理室で、餅つきの準備を行ってくれます。主任のG先生は「あまりにも保護者の参加人数が多くて、細かい役割分担をするのはやめました、お任せです」と嬉しそうに話してくれました。

確かに餅つきのセレモニーが始まった体育館には、大勢の保護者の方がいらっしやっています。ちょっと前の状況を思い出しても、これほどの保護者の方々が集まってくれたことがあったんだろうかと思うくらいでした。雑煮とあんこ、きなこに納豆、やわらかいお餅をたらふくいただきました。

学び創造部長のO先生が、3日に実施したトライテスト（英語）の結果を配ってくれました。トライテストとは、基礎力の定着を目指したミニテストです。M中のミニテストは、個人任せにせず、それに向けて朝読書を朝学習に切り替えてクラスごとに取り組みます。生徒にとっては学び直しをする機会になっている生徒もいます。このようなミニテスト形式は、どこの学校でも実施しています。渡された結果の紙を見ると、2年B組が合格率100%、平均99.5点とあります。いろいろな学校に勤めてきましたが、この合格率と平均点はなかなか出ないですね。それも12月のこの時期に。トライテストの年度当初の1回目は、これと近い数字は出ることはありますが、年度も中盤になってこの成績はどこの学校でも難しいものです。生徒も先生もミニテストに対してマンネリ化してしまうのが原因です。

ここ数日の昼の放送は、聞いていて楽しいです。「クリスマスに飾る丸いものは？ヨーロッパで食べられる薪の形のケーキは？・・・答えは12時45分ころに発表します。」と、放送担当のH.Sさんがアナウンスしてくれます。ちょっと頭をひねるものが多いですね。よく調べて問題を作ってきています。M中の校内放送

は、職員室で行うので、放送中は職員室にいる先生方もみんな静かにしていないと
なりません。S. Hさんは、マイクに電源を入れる前、何度も繰り返し練習してそ
れから放送してくれています。マイクに向かってつぶやいている姿をみながら、私
は給食を食べます。3年のK. Cさんが、“太宰 治”の本を読んでみての感想文
を朗読してくれた日もありました。太宰 文学については、このたよりのNO. 8
でも書きましたが、人間にはいろいろな面があるんだと表現したのが太宰文学で
す。放送の中でK.Cさんは、学校や家庭で悩んでいたことが、この作品を読んで晴
れたと語ってくれました。実に M 中 3 年生としてレベルの高い感想文です。

『真面目』とか、『一生懸命』ということばが、なんとなくかっこ悪い風潮にな
っている現代。親や子が、真面目に一生懸命取り組むことが、いつしか『特色ある
M 中』になっていくようです。特別な色とは、決して華やかな色ばかりでなく、何
気なく使っている日常の色にこそ表れてくるものではないでしょうか。

大縄跳びクラスマッチの結果は、2年B組（103回）が追いかける3年C組
（90回）を振り切って優勝しました。リズムよく、全員が声を合わせて跳んで、
連続でどんどん数を増やしていく様子は圧巻でしたよ。

優勝した2年B組だけでなく、縄跳びが終わるとそれぞれのクラスで大歓声があ
がります。当然、あの話し合いが長かったクラスも当日は、連続して跳んで大歓声
で終わりました。

よ〜く見ると、大縄跳びを苦手になっている生徒の手を隣の生徒がしっかり握っ
て、いっしょに飛んでいます。

こんな小さなエピソードが集まると、何気ない色でも、蛍光色に負けない特別な
色となってキラリと光り輝くわけです。

----- きりとりせん -----

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp